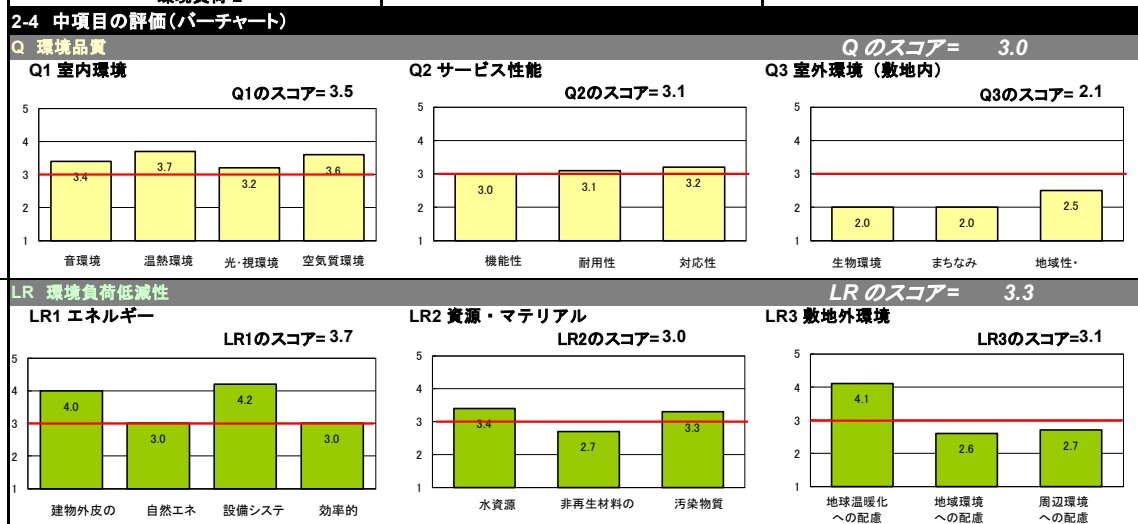
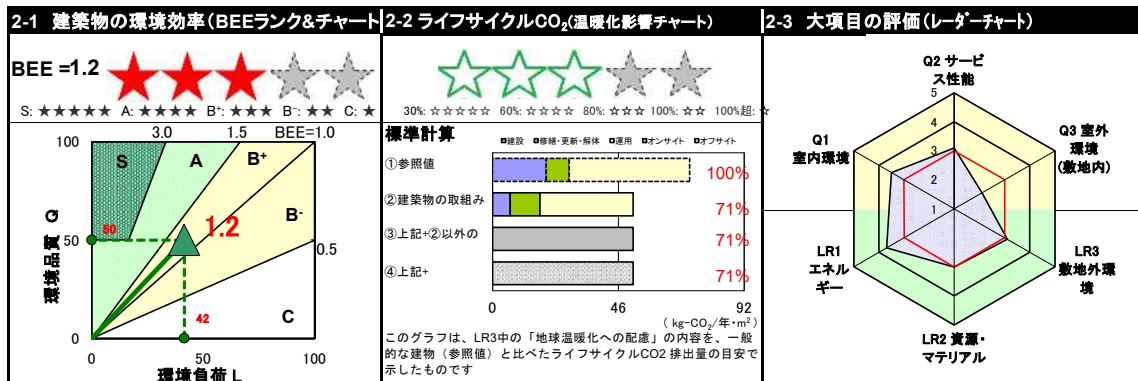


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要	1-2 外観
建物名称 (仮称)ダイヤパレス弥富	階数 地下0階地上15階
建設地 愛知県弥富市瀬浦町西前新田110番地9筆	構造 RC造
用途地域 第一種住居地域、法22条区域、都市機能誘導区域、居住誘導区域内	平均居住人員 384 人
気候区分 6地域	年間使用時間 8,760 時間/年
建物用途 集合住宅	評価の段階 実施設計段階評価
竣工時期 2027年9月 予定	評価の実施日 2025年9月17日
敷地面積 4,634 m ²	作成者 井辰かおる
建築面積 1,122 m ²	確認日 2025年9月17日
延床面積 8,802 m ²	確認者 長谷川修



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	
4.1	2.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
		48.8 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用	
2.8	1.0	<外装材に使用した地域性のある材料>
		なし
		<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$ 建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$ 

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
(仮称)ダイヤパレス弥富

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
	重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.0		
Q1 室内環境					0.40		-	3.5		
1 音環境				0.1	4.0	0.15	3.3	3.3	1.00	3.4
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.50		3.0	0.50	
1.2 遮音				0.5	5.0	0.50		3.6	0.50	
1 開口部遮音性能				-	5.0	1.00		5.0	0.30	
2 界壁遮音性能				-	3.0	-		3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	-		3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	-		3.0	0.20	
1.3 吸音				-	3.0	-		3.0	-	
2 温熱環境				0.3	2.6	0.35	4.0	4.0	1.00	3.7
2.1 室温制御				0.5	3.0	0.50	4.0	4.0	1.00	
1 室温				3.0	3.0	0.63		-	-	
2 外皮性能				3.0	3.0	0.38		4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	-		-	-	
2.2 湿度制御				3.0	1.0	0.20		-	-	
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.30		-	-	
3 光・視環境				0.2	3.0	0.25	3.3	3.3	1.00	3.2
3.1 昼光利用				0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.30	
1 昼光率				3.0	3.0	0.60		3.0	0.50	
2 方位別開口				-	-	-		3.0	0.30	
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40		3.0	0.20	
3.2 グレア対策				0.3	3.0	0.30	4.0	4.0	0.30	
1 昼光制御				5.0	3.0	1.00		4.0	1.00	
3.3 照度				3.0	3.0	0.15		3.0	0.15	
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25		3.0	0.25	
4 空気質環境				0.2	3.6	0.25	3.6	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策				0.6	4.0	0.60	4.0	4.0	0.63	
1 化学汚染物質				3.0	4.0	1.00		4.0	1.00	
4.2 換気				0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.38	
1 換気量				3.0	3.0	0.50		3.0	0.33	
2 自然換気性能				3.0	3.0	-		3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.50		3.0	0.33	
4.3 運用管理				-	-	-		-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	3.0	-		-	-	
2 喫煙の制御				3.0	3.0	-		-	-	
Q2 サービス性能				-	-	0.30		-	-	3.1
1 機能性				0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.60	
1 広さ・収納性				3.0	3.0	-		3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	3.0	-		3.0	1.00	
3 バリアフリー計画			独自	3.0	3.0	1.00		-	-	
1.2 心理性・快適性				0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.40	
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	3.0	-		3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				3.0	3.0	-		-	-	
3 内装計画				3.0	3.0	1.00		3.0	0.50	
1.3 維持管理				0.3	3.0	0.30		-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	3.0	0.50		-	-	
2 維持管理用機能の確保				-	3.0	0.50		-	-	
2 耐用性・信頼性				0.3	3.1	0.31	-	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48		-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80		-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20		-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.5	0.33		-	-	
1 躯体材料の耐用年数				-	5.0	0.23		-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			②	-	2.0	0.23		-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.09		-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08		-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	5.0	0.15		-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23		-	-	
2.4 信頼性				0.1	2.8	0.19		-	-	
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20		-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20		-	-	
3 電気設備				3.0	3.0	0.20		-	-	
4 機械・配管支持方法			②	3.0	3.0	0.20		-	-	
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20		-	-	

3 対応性・更新性			0.2	3.0	0.29	3.3	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり			-	-	-	3.6	3.6	0.50	
1 階高のゆとり			-	3.0	-		4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	3.0	-		3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
1 空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			-	2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=-	3.0	4.0	0.33	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.17	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.89	3.0	4.2	0.33	-	-	4.2
4 効率的運用				0.1	3.0	0.17	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	-	-	-	
集合住宅の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				-	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水			節湯水栓・節水型便器の採用	3.0	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.7	0.63	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減				-	3.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			LGS+PB	3.0	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.5	0.68	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			A種押出法ホ"リスチレンフォーム保温板 3種・吹付硬質 ウレタンフォーム A種1H	-	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			① ライフサイクルCO2排出率71%	-	4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮				0.3	2.6	0.33	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自	-	3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			独自 荷捌き用車両の駐車設備の確保	-	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	2.7	0.33	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	
1 騒音			独自	-	3.0	1.00	-	-	
2 振動			独自	-	-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	2.3	0.40	-	-	
1 風害の抑制				-	2.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30	-	-	

重点項目スコアシート
(仮称)ダイヤパレス弥富

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	2.8
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:48.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

環境設計の配慮事項

■建物名称 (仮称)ダイヤパレス弥富

計画上の配慮事項	
総合	省エネ等級4、1次エネルギー4取得など、地球環境負荷の低減に配慮した。
Q1 室内環境	T-2サッシの採用 住宅性能評価の断熱等性能4等級取得 F☆☆☆☆建材の採用
Q2 サービス性能	住宅性能評価の劣化等級3相当 基準階階高2.910m以上確保
Q3 室外環境(敷地内)	植栽等による良好な景観形成 建物の外壁色等の色彩に考慮
LR1 エネルギー	省エネ等級4を取得し環境負荷の低減に配慮
LR2 資源・マテリアル	節湯水栓+節水型便器の採用
LR3 敷地外環境	荷捌き用車両の駐車設備の確保 敷地内に駐車施設、駐輪施設を適切に確保
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取り組みがあれば、ここに記載してください。